

20. 重量物運搬

①パークリーナーのミッション30kgを手で持ち上げて運搬時、手が滑って足の上に落下 (平成21年 4月 午後2時頃、農機庫、男性・47歳)

パークリーナーのミッションを交換したときに取り外した古いミッション、重さ約 30kg を農機庫の入口付近に置いていたが、出入りの邪魔になるため、素手で持ち上げて運んでいたところ、持っていたプーリーが空回りしてしまいバランスを崩して手が滑り、左足の上に落としました。



救急車で搬送された最初の病院でレントゲン撮影したところ、左足親指の骨と関節の両方にヒビがあるとの診察を受けたが、釈然としなかったため、別の病院で再度診察を受けた結果、骨のヒビは認められなかった。3日間の入院と3週間の通院後、現在では後遺症はなく完治した。

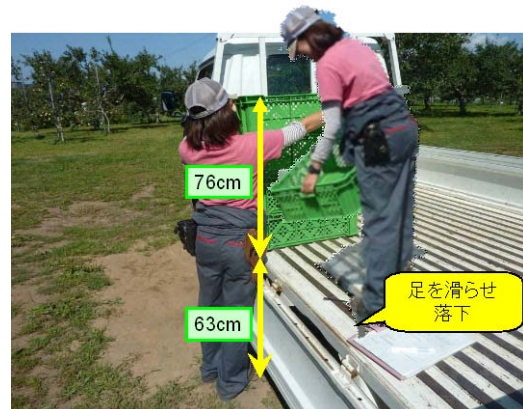
* 事故原因

力には自信があったが、結果的にはそれがケガの元になってしまった。重量物の運搬には無理をせず、台車などを利用。また、不安定なプーリーを持ったために、バランスを崩してしまった。なお、事故当日、子供が通っている学校の先生の引っ越しがあり、その見送りに出かけなければならないなど、用件が重なって忙しく、気持ちに焦りがあった。

落とした足には、普通の靴を履いていた。事故後は、作業時には必ず安全靴を履くようにしている。今まで安全靴は「重い」との意識だったが、軽量で重さは全く気にならないという。

②野菜を入れたコンテナを軽トラックから下ろしていて、荷台から足を滑らせ転倒 (平成24年 8月 11時頃、選果場前、女性・27歳)

収穫した野菜を入れたコンテナ（高さ20cm、重量約 5kg）を軽トラックから荷台に載って下ろしていたとき、コンテナを持って荷台の縁まで来たところ、左足を滑らせて転倒、約 60cm 下のアスファルト舗装に転落し、左肘を打撲した。すぐに車で病院に連れて行ってもらった。調査時点で通院中。



* 事故原因

事故当時は小雨が降っており、軽トラックの荷台が濡れて滑りやすい状態だった。また、雨合羽のズボンが長めで地面に擦る状態だった。コンテナを持ったまま、荷台から降りようとしていたことも、姿勢に無理があった。

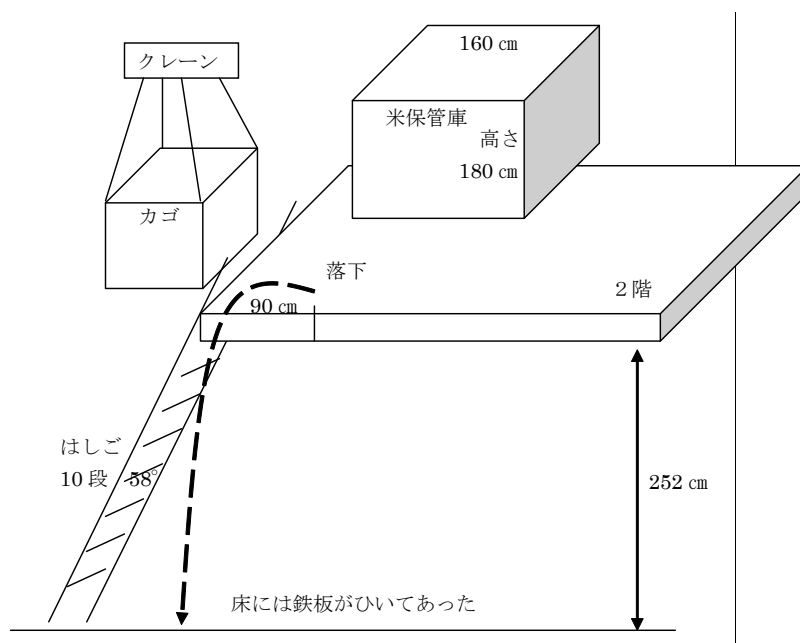
軽トラックの荷台にはコンテナが4段に積んであり、本人の身長、149cm では荷台に載らなければ最上段のコンテナの取扱いは困難であった。人道的に余裕があれば荷台に載ってコンテナを下ろす係と、地上でコンテナを受け取る係とがあれば事故は防げたと考えられる。

③ 2階の米袋をホイストクレーンに乗せて降ろす時、米袋と一緒に床下に落下、脚等骨折 (平成20年 10月 9時頃、作業所、女性・56歳)

米の保管庫 (50 俵入れ) は作業所の2階に置いてあり、当日朝、米がほしいと電話があり、1袋 (30 kg) を精米することにした。米袋を2階からホイストクレーンを使って降ろすため、米保管庫から出しホイストクレーンに乗せようと左に踏み出したところ、米の重みで体が左に振り回され、ホイストクレーンのカゴを通り越して 252 cm 下の床に米袋とともに落下した。米袋は抱いたまま落下しており、右側のおしりと右手首を打ち、大腿骨を骨折・右手を負傷した。

すごい音がしたのに近くにいた夫は、気づいてくれなかった。夫は草刈りに出るためトラックに乗ろうとしていた。夫は事務所に電話が入り、受話器を取りに向かったところ「助けて」、「救急車呼んで」と大声がしたので現場に駆けつけ事故を確認した。

夫はかかりつけの病院に電話した。病院から救急車を呼ぶように指示を受けた。救急車は10分程度で到着。タンカーに乗せられ救急車に乗車した。20分で病院に到着。右大腿骨・左橈骨遠位端骨折、右手首負傷、入院4ヵ月、その後金具を取り除く手術のため2週間入院。さらに、肉のあがりが悪く1ヶ月後に手術を受けた。



* 事故原因

2階の踊り場には横に移動する手すりが設置してあったが、通常手すりは作業の邪魔にならないように収納してあり、この日は手すりを引き出していなかった（米袋は1袋だけでありすぐに終わるので手すりを出さなかった）

血圧は上が138～140下が88程度と若干高い。米袋を持ち上げたとき血圧が上がり、立ち上がった時急激に下がって「ふらっと」立ちくらみしたことも考えられるが、本人に自覚はなかった。その後、重いものを2階に保管しておくのは危険であるので、保管庫は1階に移した。保管庫があった場所に粉タンクを設置した。

④軽油タンクのコックを閉め忘れて、作業所の床前面に広がり、置いてあった米袋を慌てて移動しようとした時転倒、米袋が胸に落ちて肋骨骨折

（平成23年 9月 午後2時頃、作業所、男性・52歳）

稲刈作業も終盤に入り2人は稲刈・他の2人は籾摺りの作業に従事していた。

午後の稲刈りに備え、コンバインに軽油を補給するため490Lタンクのコックを開きポリ容器に軽油を移していた。その直後別の作業を思いつき、その作業を終えた後お昼の準備のため家に帰ってしまった。

家でごはんを食べる前、コックを開けたまま帰宅してしまったことに気づき、4人は約400m離れた作業所まで走って行った。作業所では軽油タンクがほぼ満杯だったため軽油が作業所の床全面に広がっていた。作業所の床に直に置いてあった米15袋が濡れては困るので、パレットの上に移そうと米の入った袋を抱え走り出した瞬間、足が滑り転んだ。米の入った袋(30kg)は本人の胸の上に落ち肋骨にヒビが入った。

事故直後は痛みがあったがこらえながら予定通り稲刈り作業を行った。しばらくして咳をすると激痛となるので、事故から3日後に医院に行って診察を受けた。

診察に結果、肋骨にヒビが入りその一部が肝臓に突き刺さる恐れがあるのでコルセットを着用した。医師からは自宅で安静にしているように指示を受けた。



* 事故原因

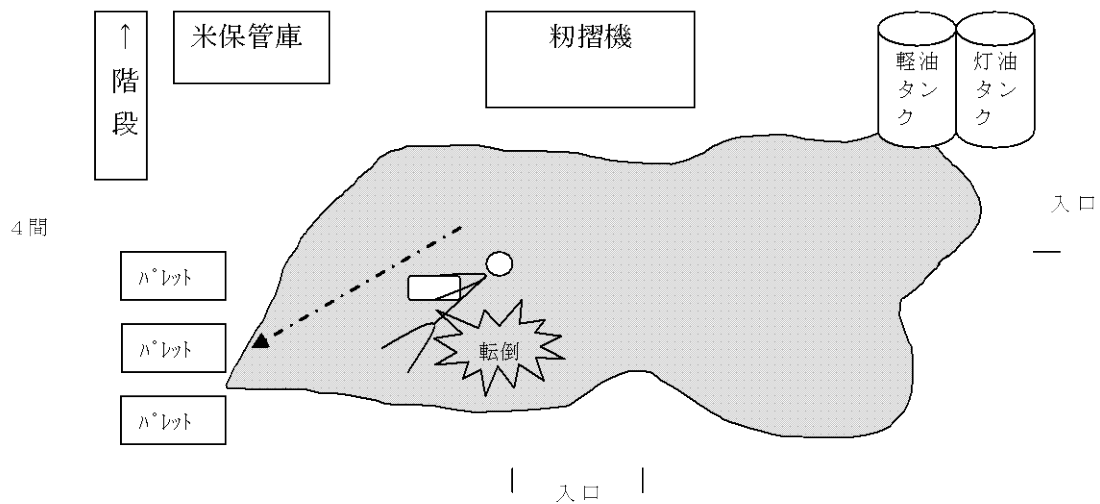
本人はせっかちな性格で灯油等をポリ容器に移す時でも何か他の作業をしていないと気がすまない。

今回もつつい他の仕事に手をだして、コックを開けたのを忘れ帰宅してしまった。小規模農家が多い地域で116枚もの圃場を預かり16haという大規模な経営を行っている。い

つも次から次へと作業に追われ、また性格上落ち着いて作業計画を立てられないらしく、計画に基づく栽培管理・作業実践は無理なようで場当たりの作業を行うため、今回も失敗をしてしまった。家から作業所に急いで駆けつけたためサンダルを履いていたことも滑りやすくしていた。

なお、ポリ容器が満タンになると軽油タンクのコックが自動的に止まる器具の開発が望まれる。

8 間



⑤つり上げたフレコンの下部の紐を開放して、籾出しの際、フレコンを吊っていた紐が切れ、頭部下敷き (平成23年 9月 午後2時、作業場、女性52歳)

朝9時頃より稲刈開始、午前中はJAのライスセンターへ籾を運び、午後の分は自宅の作業所へ籾を運び乾燥することになっていた。

刈り取った籾を籾袋（フレコン）に700～800kg入れて軽トラックで作業所に運び、父がフレコンを軽トラックからホイストクレーンで吊り上げ乾燥機に入れようとした時、フレコンのロープを結ぶ「継ぎ目」1ヶ所が切れてフレコンが乾燥機側に落下した。本人は、ちょうど、フレコンの下に入り、紐を解こうとしていたところへ、フレコンが落下し首を直撃。また、軽トラックの荷台に右手を置いていたため、右手もフレコンに挟まれた。ただ、切れた継ぎ目が一本であったこと、フレコンが乾燥機の昇降機と軽トラックの荷台に挟まれたため、床まで落下しなかったことで、さらなる重大事故には至らなかった。

自宅で乾燥する時は、隣の農家からグリーンコンテナを借り作業所に運んでいたが、当日は隣でも稲刈作業を行うのでグリーンコンテナを借りることが出来なかった。そのため、親戚からフレコンを借り作業を行うこととした。ホイストクレーンを操作していた父は、フレコンが古いことと、初めて使用するので切れないか心配していた。このため、ホイストクレーンでフレコンを2・3回持ち上げて、切れないことをわざわざ確認していた。